

第21期考古学セミナー（2019年度）
—縄文時代後期の山形—

第2回講座

講義③

最上の縄文時代後期の遺跡

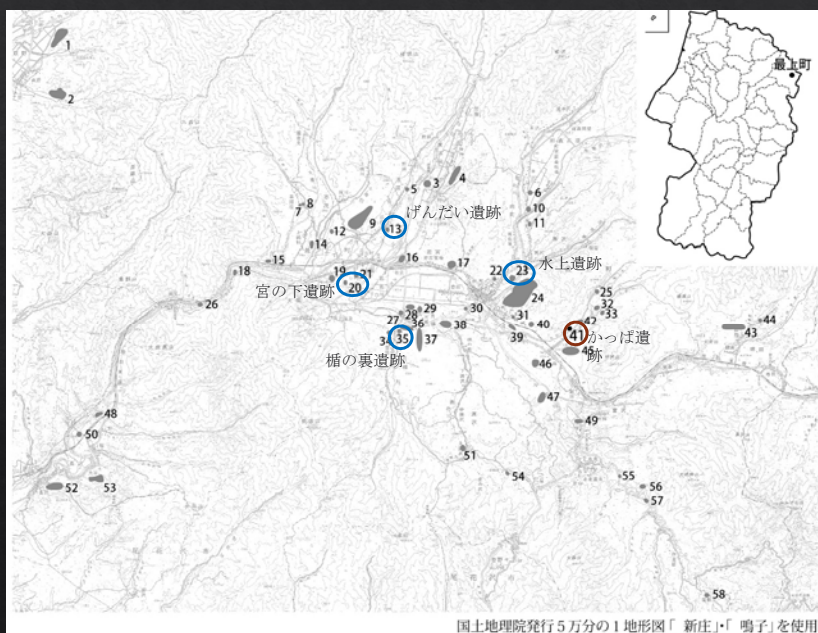
(公財)山形県埋蔵文化財センター

水戸部 秀樹 氏

令和元年10月6日（日）

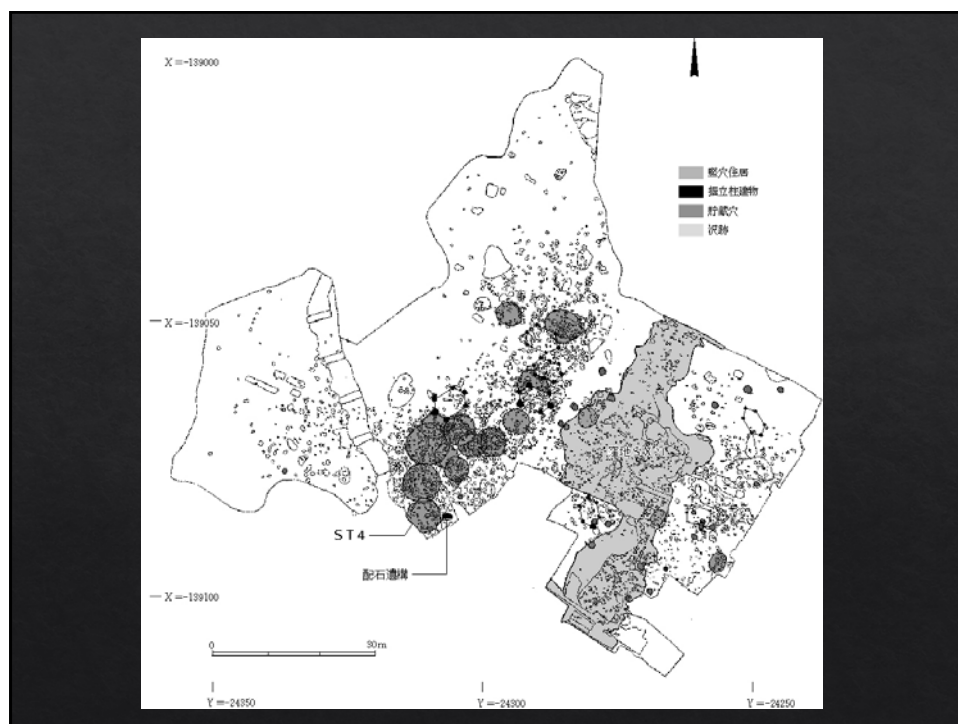
会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

遺跡の位置(向町盆地)



かっぱ遺跡の調査概要

調査原因	山形県農林水産部 中山間地域総合整備事業 (立小路地区)
調査期間	平成12年5月8日～8月23日
調査面積	6,000m ²
時代	縄文時代中期・後期
種別	集落跡



完掘状況



窪地SX21



- ◇ 捨場として利用
- ◇ 東側にのみ中期の遺物が集中

窪地SX21



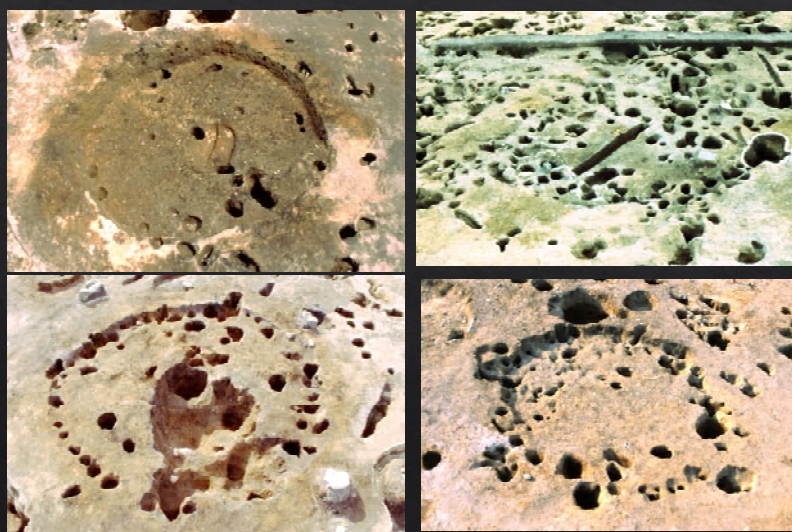
- ◇ 東側にのみ中期の遺物が集中

竪穴住居ST4



最も遺存状態の良い住居(直径6.6m)

その他の竪穴住居(7棟以上)



掘り込みが浅く壁柱穴のみが遺存

掘立柱建物SB15



亀甲形に柱穴を配置

2種類の掘立柱建物(7棟)



柱穴の規模が大きいもの



柱穴の規模が小さいもの

上部構造の違いか



大湯環状列石 復元建物 秋田県鹿角市

貯蔵穴、配石遺構、埋設土器



中期中葉の土器(大木8a式)



後期初頭の土器(称名寺式併行)

- ◆ 網取式→東北地方中・南部の太平洋側
- ◆ 門前式→宮城県、岩手県をまたぐ範囲



◆ 門前式



◆ 網取式



◆ 門前式

後期前葉の土器(堀之内1式併行)



後期前葉の土器 (堀之内2式併行)

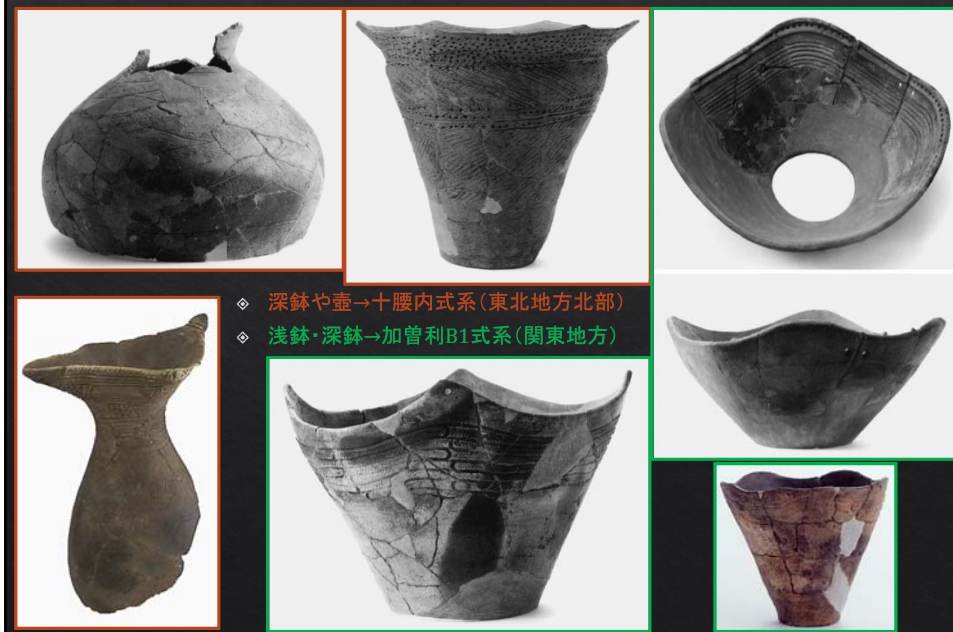


◇ 深鉢や壺→十腰内式系(東北地方北部)

◇ 浅鉢→堀之内2式系(関東地方)



後期中葉の土器(加曾利B1式併行)

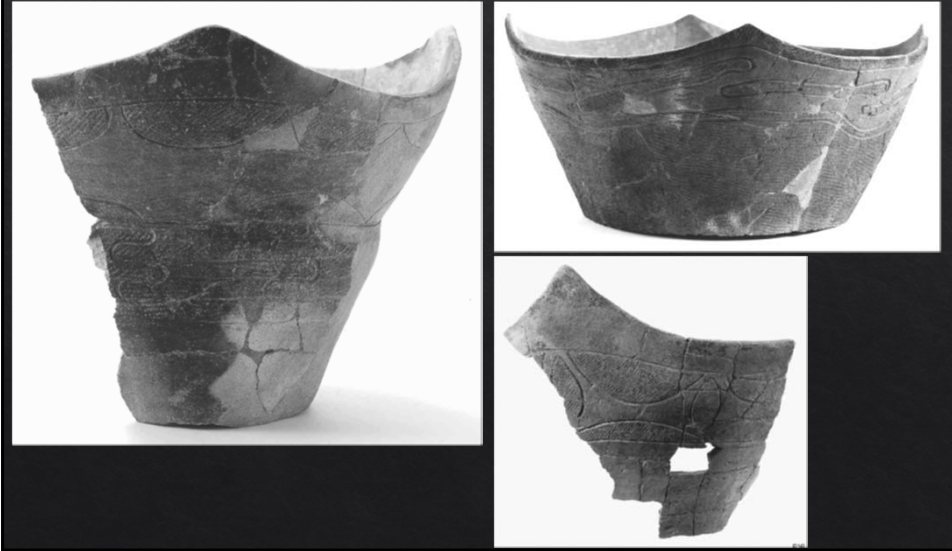


後期中葉の土器(加曾利B2式併行)



後期前葉の土器(加曾利B2式併行)

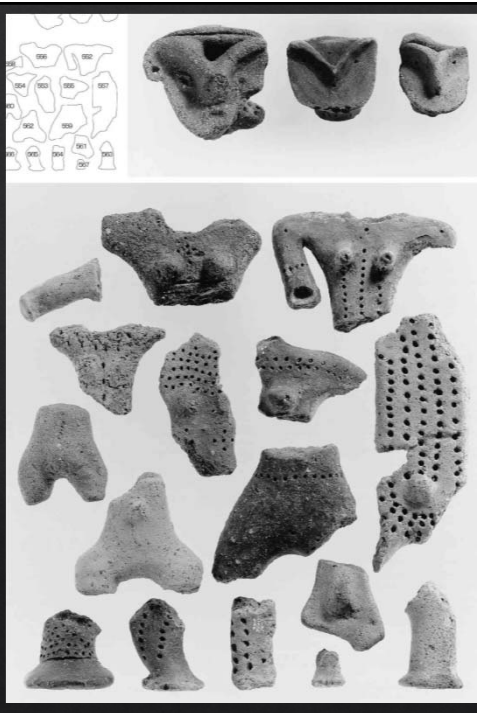
◇ 関東地方と東北地方北半の土器の特徴を持つもの



土器の変化

- ◇ 中期中葉→在地で伝統的に作られている土器
- ◇ 後期初頭→はっきりしないが、他地域の土器が出土(課題)
- ◇ 後期前葉(堀之内1式併行)→はっきりしないが、北方系はない
- ◇ 後期前葉(堀之内2式併行)→浅鉢だけが関東系、ほかは東北北半系
- ◇ 後期中葉(加曾利B1式併行)→関東系の深鉢が出現
- ◇ 後期中葉(加曾利B2式併行)→関東型の注口土器が出現、両者の特徴が融合した土器が出現
- ◇ 土器がひとりでに変化はしないので、人の移動や土器に対する意識の変化が背景にあると考えられる

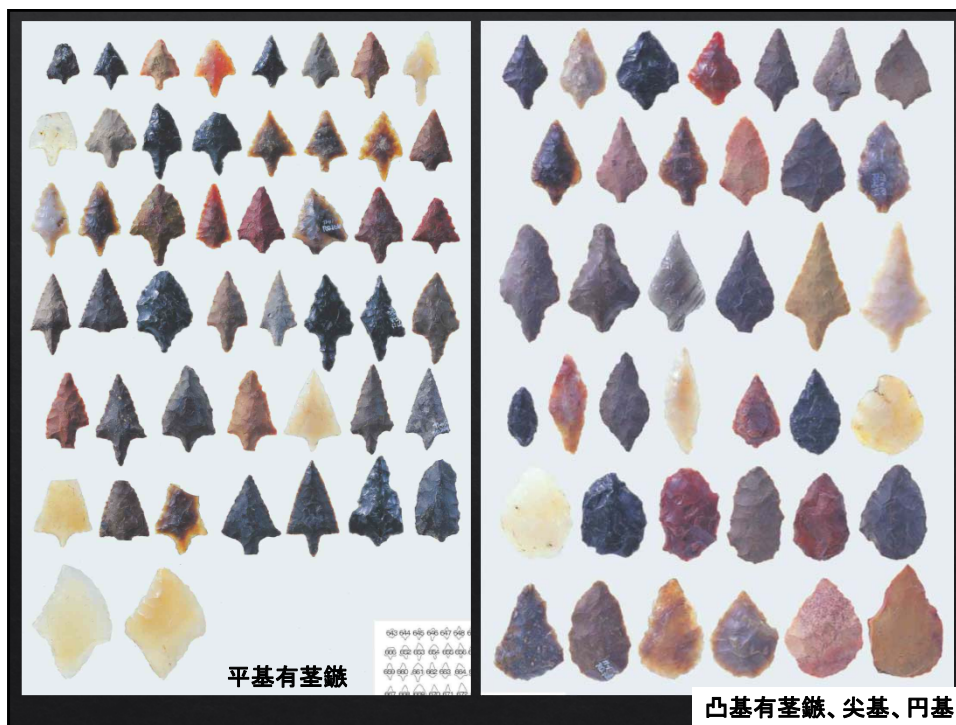
土偶



多様な形態と 石材の石鏃



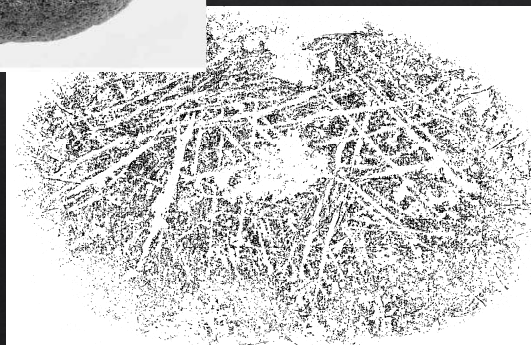
凹基無茎鏃、凹基有茎鏃



線刻礫



掘立柱建物を描いたものか？
ただの線刻か？



まとめ

- ◇ 地域内での拠点的な集落
- ◇ 竪穴住居と掘立柱建物
- ◇ さまざまな型式の土器群
- ◇ 他地域とのかかわり
- ◇ 人の移動、意識の変化